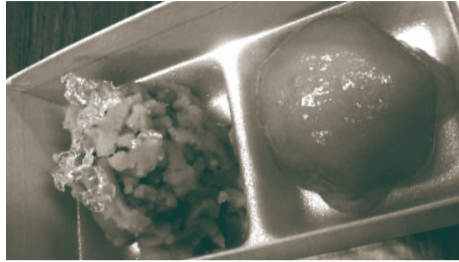


第34回 17代目と和菓子製作体験



天保年間創業の老舗 菊寿堂義信のご主人の手解きで和菓子作りにチャレンジ!お店は目立つ看板も無く、雑誌に載る度探してみるも見つからない方しばしば...実は抹茶や煎茶を嗜む茶道家達の創作依頼も引き受ける名店です。折しも当日は七夕。涼しげな葛菓子の特注し、これと対になる生菓子を織姫・彦星に見立て作りしました。豆への情熱を感じた一時です。

▶文/西村由樹子 写真/萬代陽子

第35回 真夏の光、情熱サルサダンスレッスン



講師はシンガーでもあるサルサダンスインストラクターの赤穂美紀さん。普段無意識に行っている動きも重心の取り方や歩く時の体の使い方を意識してやるとなぜか難しくエクササイズながらの消耗だ。基本ステップも見るとやるではえらい違い。動きを繋げると途端についていけない。それでもダンスエッセンスを感じつつの「筋トレ」楽しい2時間でした。

▶文・写真/萬代陽子

第36回 日本商法とドラッガー



石黒一氏を講師に迎え、ドラッガー理論と日本の商法との違いと共通点を挙げながら現在の経済を考察する、というなにより堅そうなテーマであったが、身近なたとえなどもあり、大変わかりやすく聞くことができた。石黒氏曰く「常に想定外の大小を見極め、適切な対応が求められるこの時代、変化に対応できるものがこの経済に生き残る」経済音痴の私も少し経済に興味湧く講義だった。

▶文/萬代陽子 写真/森田裕

▶ソーシャルカレッジの詳細な開催告知、報告は [e-yokobori.jp/scd.html](http://e-yokobori.jp/scd.html) で掲載中!

イベント・行事案内 **e情報**

**ソーシャルカレッジ 参加者募集!**

内容が変更される場合があります。詳細は、[www.e-yokobori.jp](http://www.e-yokobori.jp) より『部会のブログ』をご覧ください。

要予約 e-よこソーシャルカレッジ部会  
e\_yoko\_socialcollege@yahoo.co.jp または  
FAX.06-6222-3878 愛日堂薬局内 受付時間 月・金 9:00 - 18:00

第39回 谷崎潤一郎が愛した船場  
~『春琴抄』『細雪』の世界~

2011年12月12日(月)19:00-20:30  
【場所】大阪産業創造館 15F 中央区本町 1-4-5  
講師 たつみ都志氏  
武庫川女子大学文学部日本語日本文学専攻教授  
芦屋市谷崎潤一郎記念館 副館長

第40回 大正時代の小学校校舎は凄かった!!(仮)

2012年1月19日(木)19:00-21:00  
【場所】フジカワ画廊ビル 中央区瓦町 1-7-3  
講師 分田よし氏  
精華小学校舎愛好会代表  
STUDIO WAKEDA 一級建築士事務所代表



神農祭 & 船場博覧会 2011開催!

少彦名神社の大祭「神農祭」

11月22日(火)・23日(水・祝)  
道修町を中心、北船場の守護神として親しまれ、崇敬されています少彦名神社の晩秋の風物詩として多くの人々を集め賑わう年1回の大祭「神農祭」が来る11月22日・23日に開催されます。今年は大日本住友製薬㈱が自社本社前で東日本大震災被災地応援物産展として神農祭「道修町◎東北マルシェ」を11月22日11:00-14:00まで開催されます。

▶文/別所俊顕



「船場博覧会2011」

11月21日(月) - 25日(金)  
「船場地区HOPEゾーン協議会」「まちの commons 実行委員会」「堺筋アムニティ・ソサエティ」の3団体が同時にイベントを開催。メイン会場の企画展示他、様々なプログラムで船場のまちにあふれる魅力をお伝えする5日間。ぜひ、ご来場ください!



【プログラム】  
メイン会場 船場の木造建築展、大阪弁川柳展など  
【辰野ひらのまちギャラリー】  
中央区平野町 1-5-7 辰野平野町ビル B1F  
まちなか会場 セミナー、コンサート、ツアーなど  
[Samba-hope.main.jp/expo2011.html](http://Samba-hope.main.jp/expo2011.html)

**e-よこ会とは?**

「まちなかに生きる東横堀川」を目指し、季節ごとに水辺を楽しむイベントの開催、毎月のお掃除、橋へのフラワーポットの設置など、川を活かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。一緒にe-よこ界隈を楽しみましょう!



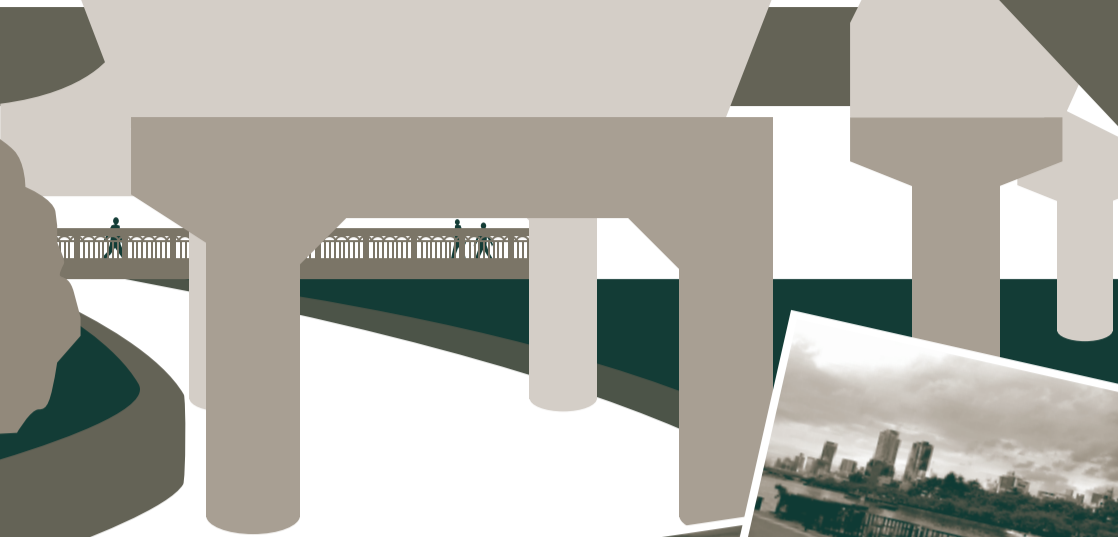
事務局 | 大阪商工会議所地域振興部

[www.e-yokobori.jp](http://www.e-yokobori.jp)

発行 | e-よこ会(東横堀川水辺再生協議会)  
編集 | e-よこ広報部会(小森利絵 廣井真由美 杉本容子 萬代陽子 森井道雄 森田裕 西村由樹子)  
デザイン | 有限会社オルタ・デザインアソシエイツ  
印刷 | 株式会社光陽社  
問合せ先 | Tel.06-6944-6323 発行日 | 2011年11月  
助成(財)河川環境管理財団 河川整備基金

e-よこ新聞を配布、  
掲示・設置していただける方募集中!

下記までお問い合わせください  
有限会社オルタ・デザインアソシエイツ  
〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-1-6 Tel.06-6204-0090



NOUNINBASHI

e-よこ会がお届けするまちの魅力  
Higashiyokobori Mizube Times

**東横堀 水辺新聞**

vol.9 2011年11月号

特集記事..... 水都大阪フェス2011報告  
今回のエリア..... 農人橋  
e-人..... 花三 白山憲次さん  
e-会社..... 本町自動車  
e-店..... 洋食屋ふじ家・Fujiya 1935  
株式会社増村人形店/うたたね  
mexico kitchen x bar  
xmusic x art ~ m u ~



▲水辺バルクルーズ  
写真/小森利絵  
▲『水辺バル』で演奏されていた  
サンバユニット  
ソンプラ・ジ・パウメイラの  
McKeeさんとヨシユキさん  
写真/萬代陽子

**水都大阪 フェス2011**

「めぐる・たのしむ・つなぐ・かんじる」という4つの視点で、大阪はこの秋、水辺を楽しむたくさんのイベントが開催されました。e-よこ会も、「大阪水辺バル」や「大阪まちあるきCUP」に参加するとともに、10月1ヶ月間、「本町橋船着場小型船係留実験プロジェクト」を実施しました。土佐堀川では、同じく10月限定で「北浜テラス特設船着場」が設置され、東横堀川の本町橋船着場とを結び、小型船が行きかいました。行き交う舟に手を振るたびに、やっぱり大阪は水の都やなど誇らしく思います。参加したプログラムを一部ご報告します。 ▶文/廣井真由美

舟で、水辺の90店舗の美味しいとこどり  
**大阪水辺バル**

大川を行き交う、フネ、ふね、舟!!10月22日(土) 天満橋・北浜・東横堀・福島・大正の飲食店をはしごする『水辺バル』で街は大賑わいでした。各店舗ではドリンク1杯+自慢の1皿を味わえる上、「舟で巡る」という水都大阪ならではの楽しみも 私は八軒家浜船着場から本町橋船着場へ、クルーズ。東横堀エリア(25店舗参加)の『自家焙煎珈琲 濱田屋』へ。素敵なカップに注がれたおいしい珈琲とやさしい味わいの焼菓子でほっこりしました。 ▶文・写真/小森利絵



▲水辺バル 濱田屋

水辺で大胆に絵を描く  
**等身大の自画像プロジェクト**



おおさかキャンパス推進事業のひとつ、アトリエズガによるワークショップ。中之島公園がアトリエ&ギャラリーに大変身!! 時折り、川を眺めたり、舟に手を振ったり...なんとも、穏やかなひととき。  
▶文・写真/小森利絵

▲等身大の自画像プロジェクト

中之島公園に  
地上絵が登場!! **灯明2011**

10月23日(日)、中之島公園の芝生広場に、ろうそく入りのカラフルな紙袋が!! 日が暮れてくると、あかりが灯り始めて..橋の下から見れば、幻想的な風景。上から見れば、かわいらしい花々が咲いていました。  
▶文・写真/小森利絵



▼灯明2011

水都大阪の船  
**夜の川に漕ぎだそう  
中之島一周 小型舟の旅**

小型舟運の活性化をめざし、10月1ヶ月間限定で実施された「本町橋船着場小型船係留実験プロジェクト」と「北浜テラス特設船着場プロジェクト」。個人の船や水上タクシーで乗り付け、川とまちを結ぼうというものです。10月19日、北浜テラス特設船着場から出発する夜のクルーズに参加させていただきました。お酒やおつまみを持ち込み、出発進行! 普段歩きながら見る水辺の景色と舟から見る景色は、高さ感も相まってより一層綺麗に見えました。今夜のクルーズは中之島1周。北浜テラスを出発し土佐堀川~中央卸売市場くらいで中之島の西の橋の折り返しとなり堂島川を通るコースです。オフィス街の照明を楽しめるのは平日ならではの。橋の名前を言いながら橋をくぐり、歩く



人や川に面したお店に向かって手を振ったり。夜風は冷たいけれど最高に贅沢な時間です。橋によっては舟と橋がギリギリの高さで思わずしゃがみこんでしまうほどのスリル! 綺麗なだけじゃない、アドベンチャー感も満載の大阪の川と橋です。水晶橋をくぐると右手に中央公会堂。そして中之島公園ももうすぐ東の端となり楽しい旅ももうおしまい。。水辺の夜景に浸り、川風を全身で感じるとても楽しいクルーズでした。  
▶文/廣井真由美 写真/青島絵里花

